

# 私立大学研究ブランディング事業

## 平成 29 年度の進捗状況

学校法人番号	231042	学校法人名	清光学園		
大学名	岡崎女子短期大学				
事業名	「子ども好適空間」研究拠点整備事業				
申請タイプ	タイプ A	支援期間	5 年	収容定員	685 人
参画組織	幼児教育学科第一部・第三部 現代ビジネス学科 地域協働推進センター 親と子どもの発達センター 研究推進センター				
事業概要	<p>本学幼児教育学科で培われてきた保育、幼児教育に対する知見の蓄積と地域に対する子育て支援、現代ビジネス学科において実践しているユニバーサルデザイン、住環境デザインの教育・研究、及び産学連携事業を学内横断的に接続し、子どもが安全に活動し、子どもにとって居心地が良く夢中になれる空間を研究する「子ども好適空間研究所」を本学独自のブランドとして確立し、研究成果を地域のこども園、幼稚園、保育所、企業（ハウスメーカー、デベロッパー、工務店等）、子育て世帯等に還元する。</p>				
①事業目的	<p>[社会的ニーズ]</p> <p>厚生労働省の「平成 23 年度人口動態統計」では子どもの死亡原因の 0 歳における第 3 位、1～19 歳における第 1 位が「不慮の事故」である。さらにその詳細を見ると 0～4 歳においては交通事故や自然災害を除けば、窒息、溺死、転倒転落、中毒、火災など家庭や身近な場所で発生する事故による傷害が多い。そのために子どもの事故を防ぎ、安全で安心できる環境を用意するためには、保育、教育の現場で勤務する人材と、家庭で育児に従事する家族に対する「子どものための空間デザイン」思考の浸透、普及が不可欠である。</p> <p>[研究ニーズ]</p> <p>1990 年代後半より、日本の産業界において多様な世代、身体的特徴に配慮した製品、環境、サービスをデザインする「ユニバーサル・デザイン」の概念が浸透し、2000 年代後半には特に子どもの安全・安心や、子どもの産み育てやすさに配慮した「キッズ・デザイン」の考え方も提唱されるようになった。しかし、地方において子どもの住環境を設計、施工するデベロッパー、工務店等が子どもに関する具体的な知見やデータを保有していることは少なく、住環境において優良な環境デザインが実現されている事例は少ない。これは保育園、幼稚園においても特に 2000 年代以前に設計・施工された事例では同様であり、子どもの安全・安心を実現する環境デザインの研究と、その成果を社会に還元する取り組みが求められている。</p> <p>また、日本における思春期の若者の「自己肯定感」の低さ、それに起因すると考えられる自殺率の高さなどが社会問題となっているが、自己肯定感の形成と幼児期の体験の関係も指摘されており、さらに音、光、色といった外的刺激量の不適切さが発達障がいの一の要因とする研究結果も存在していることから、子どもが生活する空間について経済効率を追求するのみではなく、安全性を確保した上で子どもが居心地の良さを感じることが出来る空間、集中して活動が出来る空間作りについての研究活動を推進する。</p>				

<p><b>②29 年度の実施目標 及び実施計画</b></p>	<p>(実施目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私立大学研究ブランディング事業推進委員会」により「子ども好適空間研究所」を発足し、学長のリーダーシップの下、研究所機能を運営できる体制整備を実施する。また地域こども園、幼稚園、保育所、企業、子育て世帯に対して、研究に対するニーズ調査と、モデルケースとなる空間事例の調査を実施し、研究推進のための質的、量的データ収集を開始する。</li> </ul> <p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども好適空間研究所」設立準備（10～12月）</li> <li>・「私立大学研究ブランディング事業評価委員会」設立（10月）</li> <li>・「子ども好適空間研究拠点」広報発信会議開催（10月～3月に3回の開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>：事業広報として特設 web サイト、およびリーフレットコンテンツの検討、作成。</li> </ul> </li> <li>・外部評価委員会設立（12月） <ul style="list-style-type: none"> <li>：本事業を外部から評価する機関として、学識経験者（環境デザイン、保育関係）、地域企業（建築設計）、卒業生（保育、インテリア関係）及び包括的連携協定を結んでいる岡崎市が参画する外部評価委員会を設立する。</li> </ul> </li> <li>・関連文献調査、収集（12～2月）</li> <li>・地域こども園、幼稚園、保育所に対する「冬仕様」モデルケース空間事例の調査（2～3月）</li> <li>・評価委員会の開催（3月）</li> </ul>
<p><b>③29 年度の事業成果</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「研究ブランディング事業推進委員会」「研究ブランディング事業広報委員会」を設立し「子ども好適空間研究所」発足に向けた体制の整備を進めた。</li> <li>2) 本事業推進のベースとして「研究ブランディング事業推進室」を設置した。</li> <li>3) 「研究ブランディング事業広報委員会」により情報発信の方策検討を行い、平成30年1月に「子ども好適空間研究拠点整備事業」特設 web サイトを開設、私立大学研究ブランディング事業採択告知用フライヤーの制作、配布を行った。 また、3月に「子ども好適空間研究拠点整備事業」概要告知のリーフレットの制作、配布を行った。</li> <li>4) 「研究ブランディング事業推進委員会」により「屋外子ども好適空間の研究について」「医療空間、商空間の研究について」「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関するアンケート調査について」「付属園定点観測による、保育者の空間デザイン意識の研究」「子どもの音環境の研究」「事例調査について」の6つの研究プロジェクトを創出した。</li> <li>5) 「研究ブランディング事業推進委員会」により内外の文献資料61点を選定し「研究ブランディング事業推進室」に設置した。</li> <li>6) 当初計画では予定していなかったが、平成30年3月に「子ども好適空間研究拠点整備事業」キックオフミニシンポジウムを開催し、新聞、ケーブルテレビの取材を通じて事業のPRを図ることが出来た。</li> </ol>

**④29年度の自己点  
検・評価及び外部評  
価の結果**

(自己点検・評価)

平成29年度の事業全体、および6つの研究プロジェクトについて「研究ブランディング事業推進委員会」「研究ブランディング事業広報委員会」により自己点検評価を実施し、「子ども好適空間研究拠点整備事業 平成29年度自己点検・評価報告書」を作成した。

自己点検・評価報告書を元に「岡崎女子短期大学研究ブランディング事業評価委員会」により以下10項目について評価を実施した。

- 1) 大学本部が中心となり、建学の精神を踏まえて大学の将来ビジョンを設定しているか。  
評価結果：順調に活動が推進されている。
- 2) 本事業の独自色の内容を将来ビジョンの実現に向けて位置付けているか。  
評価結果：順調に活動が推進されている。
- 3) 将来ビジョン、及び独自色を学内に周知しているか。  
評価結果：順調に活動が推進されている。
- 4) 学生募集や卒業生の進路への影響、研究成果の寄与等の本事業で想定する効果を踏まえ、本事業のステークホルダーを検討しているか。  
評価結果：順調に活動が推進されている。
- 5) 事業を通じて浸透させたい本学のイメージを整理したか。  
評価結果：順調に活動が推進されている。
- 6) アンケート調査は意見聴取、既存データの分析により、現状の本学のイメージ及び認知度を把握・分析したか。  
評価結果：実施計画が進められている。
- 7) 上記の分析内容を踏まえ、効果的な情報発信手段・内容を検討したか。  
評価結果：概ね順調に進められている。
- 8) ブランディング戦略の工程と工程ごとの成果指標及び達成目標を策定したか。  
評価結果：概ね順調に進められている。
- 9) 研究費等は研究目的に沿って計画的且つ適正に支出されているか。  
評価結果：研究目的に沿った適正な支出がなされている。
- 10) 研究活動は本学の研究倫理指針等を遵守しているか。  
評価結果：問題なく実施されている。

(外部評価)

平成30年3月に実施した「子ども好適空間研究拠点整備事業キックオフミニシンポジウム」に外部評価委員を招待し、事業、研究経過を説明し以下の意見を頂いた。

- ・大人にとって管理しやすい空間と子どもにとって居心地の好い空間が両立し得ない可能性がある。誰の視点を中心に据えるかが研究の課題になるであろう。
- ・保育現場では子どもの安全を優先した結果、子どもが生き生きと活動できる空間の実現が出来ないケースがある。これらの要件を両立する研究を自治体としても期待したい。
- ・子どもは大人により「作り込まれた空間」を与えられなくても、自らの手で遊びの空間を作り出すことが出来る。遊びを誘導する、方向付けられる空間作りが必要ではないか。
- ・到達点として、子どもの年齢によってどのような活動空間を与えたら良いか、の基準を示せると良いのではないか。

**⑤29 年度の補助金の  
使用状況**

事業経費の執行については「研究ブランディング事業推進委員会・広報委員会」において、ブランディング事業全体の方針確認と各年度の事業計画の承認、執行状況報告を行う管理体制を整えている。平成29年度は、承認された事業計画に基づいて、情報発信のための特設 web サイト開設費用、フライヤー、リーフレット制作費用、シンポジウム開催費用、などに使用した。研究においては、事業の中核となる6プロジェクトで使用する機器、用品、消耗品などを購入した。